

# クラシック音楽のインターネット配信コンサート事例研究

## ーコロナ禍における実践ー

武井 涼子  
Ryoko Takei

### はじめに

びあ総研が発表した2020年のライブ・エンタテインメント市場<sup>1</sup>規模によると、その総額は1,106億円であり、前年比82.4%減となった。

図1 ライブ音楽市場規模推移（ライブ・エンタテインメント調査委員会 2021: 20-21）



ライブ・エンタテインメント市場の中でも音楽市場<sup>2</sup>を取り上げてみると図1に示した通り、2011年以來2016年を除いて前年を上回る伸びを記録し、2019年には4,237億円の市場規模となっていた。しかし、2020年度の市場規模は589億円で86.1%減となった。

<sup>1</sup> びあ総研はライブ・エンタテインメント市場規模を音楽コンサートとステージでのパフォーマンスイベントの推計チケット販売額合計と定義している。

<sup>2</sup> ポップス、クラシック、演歌、歌謡曲、民族音楽他のライブ・エンタテインメント市場を指す。

この中身を見てみると、まず、公演回数が減少した。2019年には61,068回あった公演が、2020年は1,6494回で、対前年27.0%の開催数となった。そして、動員人数も減少した。2019年は5,497万人であったが、2020年は772万人と対前年14.0%となった。(ライブ・エンタテインメント調査委員会 2021: 20-21) この動員人数の減少は、開催数の減少以上の割合で起こっている。つまり、公演あたり動員人数は2019年が一公演あたり900人であるのに対して一公演あたり468人となり、こちらも対前年52%と約半分に減少した。公演数が減っただけではなく、公演当たりの集客も大幅に減少したことで、ライブ・エンタテインメントにおける音楽市場の大きな落ち込みが起きたのである。

このような事態がおこったのは、2020年2月26日に当時の安倍晋三総理大臣から「多数の方が集まるような全国的なスポーツ、文化イベント等については、大規模な感染リスクがあることを勘案し、今後2週間は、中止、延期又は規模縮小等の対応を要請する」との明確な要請があったことにはじまる。第1次緊急事態宣言の解除後、イベント開催における収容人数や収容率の制限は段階的に緩和されたものの、感染の第2波・第3波到来もあり、観客心理の冷え込みも相まって、ライブ・エンタテインメント市場の回復は進んでいないことが数字でも明らかになっているといえよう。

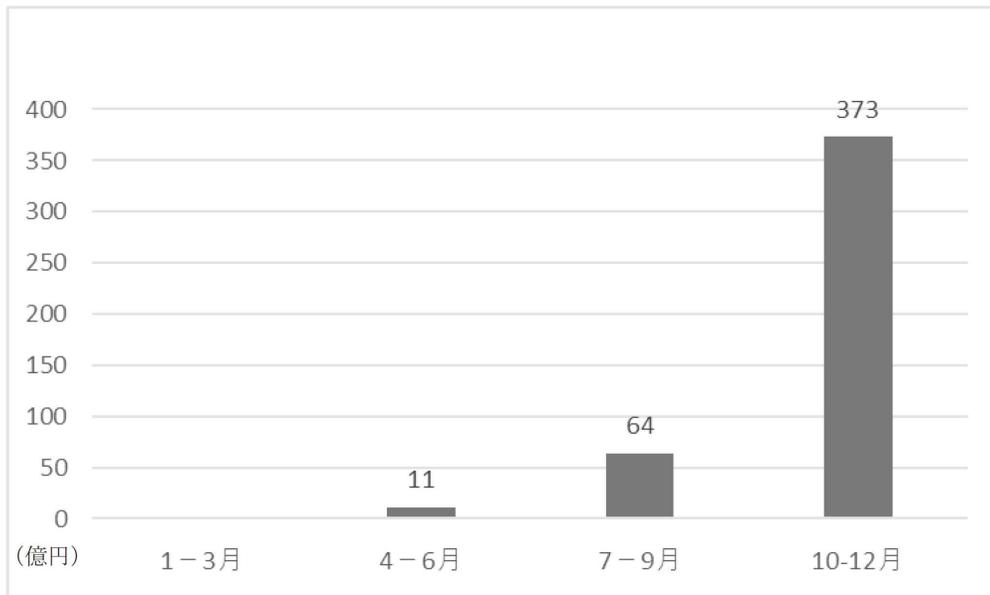
一方で、このようにライブ・エンタテインメントが壊滅的な影響を受ける中、音楽表現を行う場所として、有料型インターネット配信コンサートが注目された年でもあった。2021年2月にはぴあ総研は国内オンラインライブ市場<sup>3</sup>に関する市場調査を実施し、有料型オンラインライブの市場規模は推計448億円に上ると公表している。昨年、オンラインライブの市場規模は、ライブ・エンタテインメント市場が1,106億円であったわけだから、その40.5%の規模に成長したわけである。

図2に見られるように、ぴあ総研によると、本格的な電子チケット制の有料型オンラインライブ市場は2020年5月頃から立ち上がった。筆者も2020年の5月から6回のインターネット配信による公演の取り組みを行い、一定程度の音楽活動を実施することができた。筆者は特定非営利活動法人日本伝統文化交流協会と一般社団法人奏楽会の理事であることから、主にこれらの団体を主催団体としてオンライン配信コンサートを行っている。

---

<sup>3</sup> 音楽コンサートやステージでのパフォーマンスイベントを、インターネットによる配信で提供。電子チケットの販売により有料で提供されるものを対象とする。

図2 有料型オンラインライブ市場規模（ぴあ総研 2021）



コンサートの開催にあたっては、文化庁の「文化芸術活動への継続支援事業」、及びに「芸術文化収益力強化事業」を実施した。また経済産業省の「中小事業者への持続化給付金」も活用した。インターネット配信による公演の取り組みの目的は表現の場を確保するとともに、公演を実施することで発生する演奏料を音楽家に届け、演奏活動による収入を確保する活動を行うことにあった。そこでここでは、配信コンサートの実践の方法と問題点を明らかにし、その解決方法について考察を行ってみたい。

### 1. Zoom を活用した実験コンサートの試み

2月26日の安倍首相の談話ののち、3月10日にはイベントに関する要請が再度行われたことで、公演中止の長期化が予測される事態となった。この事態を受けて、筆者はインターネット配信での有料公演の可能性を探ることを目的に3月から準備を開始し、4月26日に6曲を演奏するインターネット配信による実験コンサートを実施した。

そもそもインターネットでの配信コンサートをどのように作ればよいかその制作方法を考える必要があった。同時にどのような内容が観客に受け入れられ、有料で配信を行うことができるか、その際に妥当な値段を把握することも必要だった。そこで、このコンサートへの参加者には、視聴の代わりにアンケート回答を義務付け、無料配信を行った。

表1 『実験コンサート』実施詳細

実施日時	4月26日午後15時より2時間
料金	実験のため無料。その代わりにアンケート回答を義務付け
観客数	28名
配信ツール	Zoom
配信方法	音楽の配信方法で実験を行った。音楽の一部とトークを生配信した。一方で、音楽の一部は事前に演奏ファイルを作成し、それをトークの合間にVTRのように流すテレビの音楽番組のような形式をとった。 説明資料にはパワーポイントを用意し、画面共有を行い、トークの助けとした。
配信・収録場所	配信：武井邸および静岡のピアノ・スタジオ。 収録：出演者自宅での宅録
配信期間	生配信のみ
出演者	ソプラノ：岩下晶子、武井涼子 ピアノ：田中健 他1名
主要配信曲目	ヴェルディ作曲 オペラ《エルナーニ》より〈エルナーニよ一緒に逃げて〉、リヒャルト・シュトラウス作曲《万霊節》、山田耕筰作曲《この道》他
配信曲数	5曲
スタッフ	制作：武井涼子、岩下晶子、田中健
主催	武井涼子、岩下晶子、田中健

インターネット配信型コンサートの視聴にはある程度インターネットを使えることが必要である。そこで、観客ターゲットは、クラシックの主な顧客層である高齢者ではなく、普段はあまりオペラや声楽曲を聴かない30代以降60代前半までとなることが想定された、そのため、この実験の参加者はグロービス経営大学院大学の卒業生で構成されるフェイスブックグループ「オペラに多少の興味があるグロービス関係者」（全125名）から募った28名とした。利用プラットフォームは在宅勤務時のオンライン会議ツールとしてよく使われていることから参加者が操作に慣れていると考えられたZoomとし、ミーティング機能をそのまま利用した。チャットなどで寄せられた質問への回答などを出演者が曲間に行うことで臨場感を演出することとした。

アンケート結果から、曲の解説が好評であること、チケット金額は2,000円から5,000円程度が妥当と考えられること、ことに音楽動画においては、歌手の顔の表情やピアニストの手元がよく見えるカメラアングルなど、リアルの公演では見ることができにくい映像が好評

であることがわかった。

しかし、出演者3名のうちソプラノの2名は大学の専任教員であり、一般の歌手に比べるとトークや解説には慣れていたものの、出演者の会話だけで曲間をつなぐと、想定より長くしゃべり続けてしまい、タイムキープが難しいことがわかった。そこで、今回はこの点を改善し、ナビゲーターを出演者に加え、台本を作ることが必要であると考えられた。

また、制作方法については、スタジオからの音楽の生配信は、Zoomの性能の問題でピアノの音が消えてしまうなど音のクオリティに問題があることがわかった。宅録についても、ピアノと歌を狭い防音室で同時に一つのマイクで録音するとやはり音のクオリティが下がることが判明した。機材などをそろえずに手軽に行う方法を考えると、音楽については事前に音楽動画を配信用に作ることで、たとえ音響の良くない自宅といった環境であっても、ある程度音にこだわったものが制作できることも同時に判明した。そこで、まずピアノを録音したトラックを用意し、それに合わせて歌手が歌だけを録音し、二つのファイルを合わせて音楽動画を作ることがもっとも手軽で音質にもある程度こだわったものを作る手段であることが分かった。

この実験結果を踏まえ、2020年5月17日に「おうちでオペラ・コンサート Vol.1」を開催した。これもまだ実験的なところみであり、有料での配信コンサートを行って、配信コンサートの視聴を有料で行ってくださるお客様がどの程度いるのか。その内容への反響は有料であった場合に無料に比べて変化があるのかを確認するために実施したものであった。

図3 『おうちでオペラ・コンサート Vol.1』 キービジュアル



表2 『おうちでオペラ・コンサート Vol.1』公演詳細

実施日時	5月17日午後15時より90分
料金	2,000円 Peatix と teket でチケットの販売を行った。
観客数	48名
配信ツール	Zoom
配信方法	トークを生配信。音楽は事前に演奏ファイルを作成し、それをトークの合間に流すテレビの音楽番組のような形式をとった。 説明資料にパワーポイントを用意し、画面共有を行いトークの助けとした。
配信・収録場所	出演者各自の自宅。
配信期間	生配信のみ
出演者	ソプラノ：岩下晶子、武井涼子 ピアノ：田中健 ナビゲーター：桑原りさ
主要配信曲目	山田耕筰作曲《この道》、ブリテン作曲 オペラ《ピーター・グライムズ》より〈刺繍のアリア〉、ジョルダノー作曲 オペラ《アンドレア・シェニエ》より〈死んだ母を〉、他
配信曲数	5曲
スタッフ	制作：岩下晶子、武井涼子、田中健、桑原りさ
主催	一般社団法人奏楽会

有料配信を行うことから、主催を武井と田中健氏が理事を務める一般社団法人奏楽会に依頼した。2週間程度のSNSによる告知で、50名近い集客があり、その多くは今までオペラを見たことのない人たちであった。チケットは電子チケットとし、Peatix と teket で販売した。

「実験コンサート」の結果を受け、ナビゲーター役にNHK ワールドニュースなどでキャスターとして活動されている桑原りさ氏を迎え、番組台本を作成の上、音楽はすべて音楽動画を事前に制作して実施した。

視聴者からの感想から、満足度が高かったことがうかがわれ、有料でのインターネット配信は可能であると思われた。また、歌い手の顔の表情やピアニストの手元がよく見えるカメラアングルなど、リアル公演では見ることができない画像も引き続き好評であった。

改善点としては、アンケートでは音のクオリティがリアルのコンサートとは差があるとの指摘が見られた。一方で普段のコンサートではなかなか聞けないトークがたくさんあることで、音のクオリティの悪さを解説などのトークが補っているとの感想も得られた。

配信チケットの発売に際しては、配信視聴に対して予約時にメールアドレスなどの個人情報

報を登録しなくてはならないという観客側のストレスがあることが予想されたため、登録をおこなわなくてもチケットが購入できるシステムである **teket** と、登録は必要だが、オンライン・イベントでよく利用されている **peatix** の両方でチケットを発売し、比較を行った。

すると、生配信の問題点として、配信視聴に際して問題が起きると知り合いの視聴者などの場合、出演者に電話やメッセージが来る、ということがあった。これに対して登録が必要な **Peatix** は参加者全員にワンクリックでメッセージが送れる仕組みがあったため、個別対応を最小限に抑えることができた。また、**Peatix** はオンライン・イベントでよく利用されているため、操作方法がわからないお客様も相対的に少なかったと考えられた。一方で登録がされていないと個別に対応をせざるを得ず、お客様に不満がたまることもわかった。登録に対するストレスはあったとしても、配信時に即時に全員に連絡の取れる手段を確保することは必要であると考えられた。

## 2. Zoom による世界を結ぶガラ・コンサートの実施

これら2回の実験的なコンサートを経て、2020年6月6日に「TIVAA オペラ・ガラ・コンサート」を開催することとした。TIVAA とは東京国際音楽アカデミーの略称であり、同じく筆者が理事を務める特定非営利活動法人日本伝統文化交流協会（以下、JTCIA と記す。）と一般社団法人奏楽会が毎年行っているオペラ歌手と声楽分野の共演ピアニスト向けのサマー・ワークショップで、2020年はその6回目の開催がオンラインで行われた。そこで、このアカデミーの修了コンサートを兼ねる形で、今までに TIVAA にかかわった歌手たちが世界中から参加するコンサートを企画した。JTCIA が持続化給付金を得たことから、主催を JTCIA とし、持続化給付金と配信チケットの売り上げを出演料にあてることで音楽家を支援することもできると考えられた。

インターネット配信においては、ピアノと歌を別々に録音し、そのファイルの音を調整して合わせて音楽動画を作ることから、海外との共演が容易に可能である。そこで、TIVAA の常任ファカルティでメトロポリタン歌劇場副指揮者のハワード・ワトキンス (Howard Watkins) 氏と、マンハッタン音楽院のシニア・オペラ・ハウス・ディレクターで、オペラの指揮者としてアメリカの歌劇場を中心に活躍するホルヘ・パローディ (Jorge Parodi) 氏に出演を依頼し、日本人との競演、また海外に在住する日本人の出演を計画した。出演者の選定は TIVAA の芸術監督でもあるホルヘ・パローディ氏が行った。



能にすることを意味する。その利点を生かし、日本、イタリア、アメリカを同時に結んでの配信を行った。司会進行役は東京、解説はニューヨーク、出演者はミラノ、東京、そしてアメリカの各都市から参加し、インタラクティブに会話を進めながら配信を実施した。この時点では、有料インターネット配信によるクラシックの大規模コンサートはあまり例がない試みだったため、本コンサートは2020年6月30日付け日本経済新聞夕刊10面の「文化往来」でも取り上げられた<sup>4</sup>。

終演後のSNSに寄せられた感想から、海外の音楽家との共演により曲目、内容への満足度は高かったと想定された。Zoomのチャット機能の活用で、演奏に対する感想がリアルタイムで送られてくるのに対し、音楽動画の配信中に演奏者が聴衆の質問を受けて回答する方式は盛り上がりを見せた。また、副次的な効果として出演者からの感謝があった。これはその当時自粛により金銭をもらって演奏を行うという生業が絶たれていた状況で、音楽を有料で伝える場が生まれたことに意義を感じたため、配信中のコメントでも演奏できる喜びが語られた。

ただし、問題も発生した。開演直後は接続がうまくいかない視聴者からの問い合わせが多く発生し、その対応に追われた。また、音楽動画ファイルの不具合から開演が30分遅れる事故が発生した。演奏時間も3時間と長すぎた。ことにZoomの音のクオリティが低すぎることには複数の視聴者から指摘があり、音の問題は改善が必要であると思われた。

資金面でも、宅録で行うコンサートであれば、その制作に大きな費用はかからない。しかし、音のクオリティの低さと、画面を見続けることを考えると、内容に目新しさが必要であり、出演者の数やクオリティの高い台本などで視聴者を楽しませることが必要であった。結果として、制作費は400万円程度となり、持続化給付金なしにはコンサートの実施は不可能であった。

表3 『TIVAA オペラ・ガラ・コンサート』公演詳細

実施日時	6月6日午後20時より180分
料金	3800円 Peatix でチケットの販売を行った。
観客数	460名
配信ツール	Zoom
配信方法	トークを生配信。音楽は事前に音楽動画を作成し、それをトークの合間に流すテレビの音楽番組のような形式をとった。

<sup>4</sup> 現在、NIKKEI STYLE に該当記事が転載されている。参考文献・資料にそのURLを記載した。

	<p>曲間の解説用のパワーポイントを用意し、出演者名や曲名を表示した。</p> <p>なお生配信後、見逃し配信を一週間行った。</p>
配信・収録場所	<p>配信：各自自宅。ミラノ、東京、静岡、ニューヨーク、フロリダ、ニュージャージーなど。</p> <p>収録：3曲はAPS記念ホールで音響技師が撮影。残りは出演者が宅録</p>
配信期間	生配信、および生配信翌日から5日間
出演者	<p>ソプラノ：岩井理花、岩下晶子、砂田愛梨、武井涼子、竹下みず穂、森谷真理、カトリーナ・シュヴェジンガー (Katrina Schwesinger)</p> <p>メゾソプラノ：井谷萌子、浦野美香、佐藤早穂子、田村由貴絵</p> <p>テノール：佐野成宏、前川健生、山本耕平、渡辺正親</p> <p>バリトン：大西宇宙、栗原峻希、ウィリアム・デビアン(William Debiens)</p> <p>バス・バリトン：後藤春馬、ナン・チン(Nan Chin)</p> <p>ピアノ：青木ゆり、笈沼甲子、川瀬史泰、立神粧子、田中健、ホルヘ・パローディ、ハワード・ワトキンス</p> <p>インタビュのみの出演者 演出家：ニック・ムニ(Nic Muni)、ロビン・グアリーノ(Robin Guarino)、ローラ・アレイ(Laura Alley)、ジェフリー・バックマン(Jeffrey Buchman)、イザベル・ミレンスキー(Isabel Milensky)、ホセ・マリア・コンデミ(Jose Maria Condemmi)</p> <p>解説：小林伸太郎</p> <p>ナビゲーター：谷本有香</p>
配信曲目	<p>ワーグナー作曲《ヴェーゼンドンク歌曲集》より〈夢〉</p> <p>コープランド作曲《心よ、私たちは彼を忘れるだろう》</p> <p>チャイコフスキー作曲 オペラ《スペードの女王》より〈あなたを愛しています〉</p> <p>ドニゼッティ作曲 オペラ《ランメルモールのルチア》より六重唱</p> <p>ビゼー作曲 オペラ《カルメン》より〈三重唱カルタの唄〉、他</p>
配信曲数	19曲
スタッフ	<p>芸術監督：ホルヘ・パローディ</p> <p>制作：武井涼子、武藤史子、竹田慎</p> <p>台本：竹田慎</p> <p>音響：松本和人</p> <p>動画編集：松本和人、武井涼子</p>
主催	<p>主催：特定非営利活動法人日本伝統文化交流協会</p> <p>制作・協力：一般社団法人奏楽会</p>

### 3. Vimeo へのプラットフォーム移行

『TIVAA オペラ・ガラ・コンサート』を受け、今回は 12 月に再度大規模なガラ・コンサートを実施することを見越して、より一層配信のクオリティを上げる方法を模索していくこととなった。一方で一般社団法人奏楽会にも持続化給付金が支給され、資金面でも制作・出演費も捻出できた。そこで『三つの世界』コンサートを 7 月 5 日に実施し、配信コンサートのクオリティ向上をはかることにした。この配信コンサートにもホルヘ・パローディとハワード・ワトキンスが参加し、TIVAA として公演を行うこととなった。『三つの世界』とはアリア、歌曲、重唱の 3 種類の声楽のジャンルを現した公演名である。

今回の大きな課題は配信音声の品質の向上であった。会議システムである Zoom は音質のクオリティが低い。このため配信プラットフォームを変更することが必須であった。Youtube、ツイキャス、イチナナなどのシステム比較したうえで Vimeo を配信プラットフォームとして選定した。まず、観客からは peatix の登録にもストレスがあるとの報告があった。そこで登録が不要で配信 URL だけを聴衆に案内すればよいプラットフォームを選定した。その中でも音のクオリティが高ものは Youtube と Vimeo のみであった。この 2 つのうち、Youtube は、課金による配信を禁止しているため有料配信には利用できない。一方で Vimeo は、年間 9 万円を支払えば生配信が可能なプラットフォームである。URL さえ伝えれば、誰にでも見てもらうことができ、課金も可能で、パスワードによる動画管理も可能である。このため配信プラットフォームには Vimeo を選定した。会議システムである Zoom では不要であった配信用のツールには switcherstudio.com を選定した。これはサブスクリプション方式でスイッチャーと配信用ツールの役割を同時に担うアプリで月に 35 ドルで利用できる。スイッチング機能としては、アプリ上に iPhone、iPad、PC など 10 台までを同時につなぎ、それらの画面か、カメラ機能を利用できる。加えて iPad のアプリ上に放映予定の動画やさまざまな画角、テロップなどを準備しておくことで、スイッチングを自由に行い配信動画のクオリティを上げることができる。

しかし、switcherstudio.com は音声をスイッチャーとして利用している iPad 一か所ではしか拾うことができず、また中継が一時に一か所としかできない。つまり Zoom のように多拠点と同時に話しながら配信を進めていくことはできない。そこで、『三つの世界』では、WiFi の整った武井邸のリビングをスタジオにし、ニューヨークと静岡を交互につないで配信を行った。

プラットフォーム変更により音楽動画の音声のクオリティは向上したが、配信時に利用したマイクの性能のために、スタジオでの会話の音声クオリティが下がってしまった。また、

図5 『三つの世界』キービジュアル



配信を行ってみると、Vimeo の生配信は、配信に際して 20 秒以上のレイテンシーがあることが確認された。したがってチャット機能で聴衆とやりとりを行おうとしても、聴衆が見ている動画は 20 秒以上前の動画であるため、聴衆とのリアルタイムでのチャットによるやり取りが難しくなった。switcherstudio.com は、その説明には生配信の際の中継先の音声は出力される仕様になっていると書かれているが実際には指示通りに操作しても音声は出力されない。そこで、スタジオと静岡、ニューヨークとの会話に際しては電話回線を併用してトークを行った。

上記のような欠点もあったが、何よりも音楽動画の音声クオリティが向上したことと、カメラのスイッチングがスムーズになったことは大きな成果であった。ただし、今回はトーク時の音声の改善が望まれた。また、字幕の作成で不都合が生じ、一部の楽曲において Vimeo の字幕機能がうまく動かないために字幕が切れてしまったことも問題であった。

表4 『三つの世界』公演詳細

実施日時	7月5日午後3時より120分
料金	3000円 Peatix でチケットの販売を行った。
観客数	50名
配信ツール	Vimeo 及び switcherstudio.com
配信方法	トークを生配信。音楽は事前に演奏ファイルを作成し、それをトークの合間に流すテレビの音楽番組のような形式をとった。
配信期間	見逃し配信を含め1週間
配信・収録場所	配信 メインスタジオ：武井邸

	中継先：静岡とニューヨークの出演者自宅 収録 ソロ曲は宅録、重唱曲は APS 記念ホールで収録。
出演者	ソプラノ：岩下晶子、武井涼子、竹下みず穂 メゾソプラノ：浦野美香 テノール：山本耕平 バス・バリトン：後藤春馬 ヴァイオリン：上敷領藍子 ピアノ：ホルヘ・パローディ、ハワード・ワトキンス、田中健 ナビゲーター：桑原りさ
配信曲目	ベルリオーズ作曲 オペラ《ファウストの劫罰》より〈燃える恋の想いに〉 マスネ作曲 オペラ《マノン》より〈マノンのガボット〉 プッチーニ作曲 オペラ《ラ・ボエーム》より〈冷たき手を〉 モーツァルト作曲 《すみれ》、《ルイーゼが不実な恋人の手紙を焼いたとき》 プッチーニ作曲 オペラ《トスカ》より一幕の二重唱、他
配信曲数	10 曲
配信期間	1 週間
スタッフ	芸術監督：ホルヘ・パローディ 制作：武井涼子、武藤史子 字幕制作：三浦真弓 録音：株式会社 MCJ 撮影・動画編集：武井涼子
主催	主催：特定非営利活動法人日本伝統文化交流協会 制作・協力：一般社団法人奏楽会

#### 4. リアル・コンサートとのハイブリッド配信型コンサートの実施

7月11日には東京二期会スペシャル・オペラ・ガラ・コンサート「希望よ、来たれ！」が開催され、リアルなコンサートが少しずつ復活し始めていた。また、文化庁では「文化芸術活動の継続支援事業」が開始され、この助成を活用すれば4分の3の助成を受けてリアルなコンサートを開催することが可能となった。そこでリアルなコンサートと配信コンサートを組み合わせることで、収益機会を拡大して公演を成立させることが可能かどうか確かめるべく、『うたの世界へようこそ』を開催した。

まず、「文化芸術活動の継続支援事業」の活用により9月26日にルーテル市ヶ谷ホールでリアルなコンサートを計画した。このコンサートを収録コンサートと位置づけ、コンサート

で演奏された曲から8曲と、ホルヘ・パローディ氏とハワード・ワトキンス氏が弾くピアノに合わせた宅録による音楽動画を組み合わせ、10月3日に配信コンサートを実施した。配信コンサートの配信場所には有楽町 SAAI の協力が得られたため、広いスペースで実施することができた。なお、9月26日の演奏曲目は久しぶりのリアルなコンサートであることから有名曲をできる限り集めることとした。

表5 『うたの世界によろこそ』収録コンサート詳細

実施日時	9月26日午後7時30分より90分、休憩なし
料金	3500円 Peatixでチケットの販売を行った。
観客数	70名
会場	ルーテル市ヶ谷センターホール
出演者	ソプラノ：岩下晶子、武井涼子、竹下みず穂 メゾソプラノ：浦野美香 テノール：佐藤圭 バス・バリトン：後藤春馬 ピアノ：田中健
演奏曲目	フォーレ作曲《レクイエム》より〈ピエ・イエズ〉 モーツァルト作曲 オペラ《魔笛》より〈復讐の炎は地獄のように燃え〉 J. シュトラウス作曲 オペレッタ《こうもり》より〈泣き泣きお別れ〉 シューベルト作曲《魔王》 シューベルト作曲《アヴェ・マリア》 團伊玖磨作曲《花の街》、他
演奏曲数	15曲
スタッフ	芸術監督：ホルヘ・パローディ 制作：武井涼子
主催	主催：特定非営利活動法人日本伝統文化交流協会 制作・協力：一般社団法人奏楽会

リアル・コンサートの開催に当たってはクラシック音楽公演運営推進協議会の策定した「クラシック音楽公演における新型コロナ・ウイルス感染拡大予防ガイドライン」にのっとり感染対策を行った。

まず、舞台前方3列の座席を利用せず、観客は市松模様に座っていただいた。入場時には

観客の体温測定と消毒のお願いをしたうえで、公演主催側と観客との直接接触を一切立つために、以下のような対策を行った。

- 1) チケットはリアル・コンサートでも Peatix を使い非接触での入場管理を行う。
- 2) 受付と観客の接触を行わないために、受付での金銭授受、プレゼントは受け付けをなくし、プログラムやチラシも観客が取っていくようにする。

出演者と観客の接触を避けるために、楽屋面会、ロビー面会を禁止し、手洗いで飛沫感染を最小限にとどめるため、90分、休憩なしの演目とした。そのうえで、開演前に会場消毒を行い、出演者には PCR 検査を行った。

これらの対策には、会場消毒と PCR 検査に合計で 100 万円に近い多額の費用が掛かった一方、座席数 200 に対して入場者数は 70 席に限る必要があったため、4000 円の入場料を取り、満席となったものの、売り上げは通常のコンサートの半分以下となった。そもそも売り上げが半分で赤字になる上に、追加費用の 100 万円の出費分までも配信コンサートで売り上げることは難しいと考えられ、助成金なしにはしばらくの間リアルコンサートは成立しないと考えられた。

配信時にはスタジオの背景が気になることから、広いスペースを確保すべく三菱地所が運営する有楽町 SAAI の協力を得た。また、トークの音声をスムーズに配信するため会議用マイクを二台つなぐことで広範囲の音の集音を可能とした。字幕については、Vimeo の字幕機能を利用するのではなく、最終の音楽動画ファイルに字幕を入れ込んだ動画を作成し、それを配信する形をとることで字幕が切れないようにした。

配信音声の不安定さは解消され、前回問題となったトークの際の音の不安定さは解消されたが、マイクが会場の備え付けのものであったため他の会場での実施に不安が残った。前回同様、中継先とは電話もつながらないと話ができないことは問題だった。

また、今回 switcherstudio.com と Vimeo の接続にバグが生じ、事前に用意していた URL が利用できなくなったため開始が 15 分遅れるとともに、配信直前に予告していたものとは異なる URL を利用せざるを得なくなった。ただ、Peatix でチケットを販売していたため、連絡をスムーズに行うことができ、大きなクレームは発生しなかった。次回は、URL を事前に案内せず、直前に決定するとよいと考えられた。スムーズな配信が行えたことから、12 月に実施予定の再度のガラ・コンサートも基本的にはほぼ同じ体制が利用できると考えられた。ただ、Vimeo では多拠点中継ができない問題点をどのように解決するかについてはアイデアが必要であった。

表6 『うたの世界へようこそ』配信コンサート詳細

実施日時	10月4日午後7時より120分
料金	3000円 Peatix でチケットの販売を行った。
観客数	52名
配信ツール	Vimeo 及び switcherstudio.com
配信方法	トークを生配信。音楽は事前に演奏ファイルを作成し、それをトークの合間に流すテレビの音楽番組のような形式をとった。
配信期間	1週間
配信・収録場所	配信 メインスタジオ：有楽町 SAAI 中継先：ニューヨークの出演者自宅 収録 収録コンサート（8曲） 各自自宅での宅録（7曲）
出演者	ソプラノ：岩下晶子、武井涼子、竹下みず穂 メゾソプラノ：浦野美香 テノール：佐藤圭、山本耕平 バス・バリトン：後藤春馬 ヴァイオリン：上敷領藍子 ピアノ：田中健、ホルヘ・パローディ、ハワード・ワトキンス ナビゲーター：桑原りさ
配信曲目	コンサートからの収録曲 8曲 J. シュトラウス作曲 オペレッタ《こうもり》より〈泣き泣きお別れ〉 シューベルト作曲《魔王》他  宅録による音楽動画 クルティス作曲《勿忘草》 マスネ作曲 オペラ《タイス》より〈瞑想曲〉 ビゼー作曲 オペラ《真珠とり》より〈神殿の奥深く〉、他
配信曲数	15曲
スタッフ	芸術監督：ホルヘ・パローディ 制作：武井涼子 字幕制作：三浦真弓 録音：松野睦 撮影：永吉貴志、安中みずほ 動画編集：武井涼子
主催	主催：特定非営利活動法人日本伝統文化交流協会 制作・協力：一般社団法人奏楽会

図6 「うたの世界へようこそ」 キービジュアル

### 5. 収益力強化事業『TIVAA クリスマス・オペラ・ガラ・コンサート』の実施

音楽活動の実施が困難な年となった2020年の締めくくりに、来年への希望をつなぐことを目的にリアルな収録コンサートと配信コンサートでガラ・コンサートを開催、ホルヘ・パローディ氏のビデオの指揮と2台ピアノで、ワーグナー作曲オペラ《ワルキューレ》より「ワルキューレの騎行」などを演奏した。

本コンサートの配信コンサートは文化庁主催「文化事業の収益力強化事業」に採択され、リアルな収録コンサートは360チャンネル、感劇三昧、UNEXTでの配信が決定した。そこで、海外との演奏動画などを流す生配信はプロモーション配信コンサートと位置づけ、無料で実施した。

表7 『TIVAA クリスマス・ガラ・コンサート』収録コンサート詳細

実施日時	12月4日午後7時より120分、休憩二度（15分と10分）
料金	5000円 Peatixでチケットの販売を行った。
観客数	70名
会場	ルーテル市ヶ谷センターホール
出演者	指揮（ビデオ出演）ホルヘ・パローディ ソプラノ：岩井理花、岩崎香、岩下晶子、武井涼子、 メゾソプラノ：井谷萌子、浦野美香、川口美和、下倉結衣、田村由貴絵、中村裕美 テノール：山本耕平、渡辺正親 バス・バリトン：後藤春馬

	ピアノ：笈沼甲子、田中健、宮崎智子
演奏曲目	ドニゼッティ作曲 オペラ《ファヴォリータ》より〈私のフェルナンド〉 ワーグナー作曲 オペラ《タンホイザー》より〈歌の殿堂〉 サン＝サーンス作曲オペラ《サムソンとダリラ》より〈あなたの声に私の心はひらく〉 マスネ作曲オペラ《マノン》より〈消え去れ、甘い面影よ〉 ワーグナー作曲オペラ《ワルキューレ》より〈ワルキューレの騎行〉 他
演奏曲数	18 曲
スタッフ	芸術監督：ホルヘ・パローディ 音響：株式会社 1991 浅田将助 動画編集：株式会社 360Channel 岡山真也 撮影：永吉 貴志、安中みずほ 写真撮影：(株) 光潮社 堀恵介 制作：武井涼子
主催	主催：一般社団法人奏楽会、特定非営利活動法人日本伝統文化交流協会

リアル収録コンサートは感染が落ち着きつつあった時期であったため、休憩を入れ、2時間とする通常に近いタイムラインで実施できた。VR撮影の準備のために、「ワルキューレの騎行」の前に10分間の小休憩をはさんだ。

感染防止ガイドラインにのっとっての開催は前回同様であったが、今回は休憩時間を設けることから文書と場内アナウンスで手洗い利用時における感染防止策について言及した。

表8 『TIVAA クリスマス・ガラ・コンサート』プロモーション配信コンサート詳細

実施日時	12月12日午後7時より120分
料金	生配信視聴は無料 見逃し配信のみ2000円、Peatixでチケットの販売を行った。
観客数	413名
配信ツール	Vimeo 及び switcherstudio.com
配信方法	トークを生配信。音楽は事前に演奏ファイルを作成し、それをトークの合間に流すテレビの音楽番組のような形式をとった。
配信期間	一週間
配信・収録場所	配信 メインスタジオ：News Picks New Cafe 中継先：ニューヨーク、ミラノなどの出演者自宅

	収録 収録コンサートから（5曲） 各自自宅での宅録（10曲）
出演者	指揮：ホルヘ・パローディ ソプラノ：岩井理花、岩崎香、岩下晶子、砂田愛梨、宗心裕子、武井涼子、森谷真理 メゾソプラノ：井谷萌子、浦野美香、川口美和、佐藤早穂子、下倉結衣、田村由貴絵、中村裕美 テノール：佐藤圭、山本耕平、渡辺正親 バリトン：ウィリアム・デビアン、栗原峻希 バス・バリトン：後藤春馬、ナン・チン ピアノ：青木ゆり、笈沼甲子、川瀬康史、田中健、宮崎智子、ホルヘ・パローディ・ハワード・ワトキンス
配信曲目	コンサートからの収録曲 ワーグナー作曲 オペラ《ワルキューレ》より〈ワルキューレの騎行〉他全5曲  宅録による音楽動画 モーツァルト作曲 オペラ《フィガロの結婚》より〈訴訟に勝っただど〉 ヴェルディ作曲オペラ《リゴレット》より4重唱 チレア作曲オペラ《アドリアーナ・ルクヴルール》より〈私は芸術のしもべ〉 ビゼー作曲オペラ《カルメン》より〈恋は野の鳥〉 他全10曲
配信曲数	15曲
スタッフ	芸術監督・指揮：ホルヘ・パローディ 音響：株式会社1991 浅田将助 動画編集：株式会社360Channel 岡山真也 撮影：永吉 貴志 安中みずほ 字幕：三浦 真弓 制作・宅録動画編集：武井涼子
主催	主催：文化庁、一般社団法人奏楽会 制作：一般社団法人奏楽会 協力：東京インターナショナル声楽アカデミー

図7 『TIVAA クリスマス・ガラ・コンサート』 キービジュアル

Tokyo International Vocal Arts Academy (TIVAA) presents:  
TIVAA “on Live” & “at Home”  
Christmas Gala Concert  
「クリスマスガラ・コンサート」

収録コンサート：  
2020年12月4日(金)午後18:30開場 7:00開演  
於 ルーテル市ヶ谷ホール ¥5,000  
配信コンサート：  
2020年12月12日(土)午後7:00開演

収録コンサート会場  
ルーテル市ヶ谷ホール  
〒162-0842 東京都新宿区市ヶ谷砂上原町1-1  
TEL. 03-3260-8621  
◆各線 市谷駅下車◆  
◎JR 総武線 地上出口 徒歩7分  
◎都営地下鉄 新宿線 A1出口 徒歩7分  
◎東京メトロ 有楽町線 5,6番出口 徒歩2分  
◎東京メトロ 南北線 5,6番出口 徒歩2分

主催：NPO法人日本伝統文化交流協会 東京インターナショナル音楽アカデミー  
制作・協力：一般社団法人 奏楽会 お問い合わせ：support@sogakukai.com

配信コンサートでは中継先の音声がかき消えないという課題を解決し、同時に多くの中継地点を結ぶことを実現するため、Vimeo を配信プラットフォームとして用いつつ、Zoom と switcherstudio.com を組み合わせて運用した。switcherstudio.com の機能の一つである、PC 画面をそのまま配信できる機能、switchercast を利用し、switcherstudio.com から Zoom 画面を出力して多拠点中継を実現することとした。しかし、switchercast では、Zoom の画面は配信されるが音声は配信されない。そこで、Zoom の音声を別に配信ツールにつなぐ必要があった。本来であれば音声ラインを引いて switcherstudio.com を動かしている iPad につなぐのが最も確実に音声を配信できるが、オーディオセパレーターなどの比較的高額な装置を購入することはためらわれた。そこで、会場のスピーカーを利用し、そのスピーカーの音をそのままトーク用のマイクで拾う形式をとった。

この方式でも、会場の音声ボリュームを調整することで音声の中継も問題なく進行でき、コストをセーブすることができた。また、switcher.com の操作にスタッフが慣れてきたことで、音楽動画、進行、画面のスイッチングなどの全体のクオリティは今までで最も高いものを提供することができた。

Zoom を運用に組み込んだことで、スムーズな多拠点中継が実現できた。しかし、スピーカーの音声をマイクで拾う方式では、最適なボリュームに調整するまでに少し時間がかかって

しまった。また、会議用のマイクが前回の会場とは異なるものであり、集音範囲が狭かったため、トーク部分の音声の一部聞こえにくくなってしまった。

また、再度 switcherstudio.com と Vimeo 間でバグが発生し、配信 URL の視聴者へのお届けが配信開始とほぼ同時となってしまった。今回の経験から、switcherstudio.com 側で多くの配信 URL を生成するとバグが発生することが問題であることがほぼ突き止められた。次回からは改善が期待される。

なお、12月4日のリアルな収録コンサートはコンサートをほぼそのままを新たに映像作品として制作しなおしたコンテンツが、U-NEXT、観劇三昧、360Channel での配信販売されている。中でもワーグナー作曲オペラ《ワルキューレ》から〈ワルキューレの騎行〉は客席最前列とピアニストの通常のリアル・コンサートの鑑賞では見るのが難しい二つの視点から VR 映像を制作し 360Channel で配信販売を行っている。本配信販売事業は 2022 年 1 月も継続中で、U-NEXT、感激三昧、360Channel でも合わせて月に数千円の配信売り上げが上がっている。この配信コンサートの実施と配信は、収益力強化事業として文化庁から約 500 万円を委託費として実施した。本収益事業では、U-NEXT などで取り組みのプロモーションなども行われていた。また、コンサート内容や映像も 360 チャンネルなどのプラットフォームからもユニークでおもしろいと評価を受けるものであった。しかし 3 つのプラットフォームにおける配信の売り上げは合わせても月数千円程度であり、制作費が 500 万円かかったことを考えるとコンサート事業としては赤字である。

## 6. インターネット配信の課題と今後の展望

今まで述べてきたように、6 回のインターネット配信コンサートを実施してきたなかで多くの課題が見出され、一つ一つ解決を重ねてきた。6 回を経た現在でも、常に付きまとう課題は録音時、配信時の音声クオリティと配信に利用する配信プラットフォーム、配信ツールといった一連のアプリケーションの信頼性である。音が悪ければ配信する意味がなく、アプリケーションが繋がらないと配信そのものが行えない。音とアプリケーションは配信の成否に影響を与える要因であった。

音については、音楽動画の音質に対する視聴者の意見が毎回多く寄せられた。出演者にも、録音そのものを嫌う人も多かった。これは、そもそも声楽をマイクを通して聴くことに問題があると考えられるからである。ベルカントと称されることの多い声楽家の発声は、マイクを通さず、オーケストラを超えて広い客席にダイナミックとともに音を届けるために鍛えら

れている。一方でマイクはすべての音を拾うわけではない。またマイクはボリュームの調整なども人工的に行うことができてしまう。その結果、ホールで聴く際に感じられる声楽家の声の響きとボリューム感が録音だと消えてしまう。

収録を行うようになってから録音技師にお願いをすることが多くなったが、この時に、録音技師にもクラシックや声楽に対する録音の知識が必要であることがあげられた。今回4名の録音技師の方が本プロジェクトにかかわったが、以前より存じ上げている1名を除き、事前の打ち合わせを経ている、まず、ピアノのハンマーの近くと歌手の前にマイクをセットし、その後ソプラノ歌手の音のボリューム大きさに慌ててセッティングを変えていた。バークリー音楽院の Youtube 番組「Tips for Recording Opera Vocals」でも指摘されている通り、オペラ歌手の声を取るときには、マイクをなるべく遠くにおいて部屋の自然な響きを取ることが大事である。実際に、オペラ歌手がよく使うニューヨークのレコーディングスタジオで録音した際には響きの良い大変広いレコーディングスタジオのもっとも私から遠い対角線上天井近くにステレオ・マイクが設置されており、5メートル以上離れてマイクが置かれていた。

主催、制作の立場での注意点としては、録音に際してはなるべく広い場所を確保し、ホールの中でもっとも響く位置にマイクをステレオで置き、その音をメインにさせていただくように指示を出しておくことと、音のミックスに立ち会って、主催側から具体的に指示を入れ、録音技師の方に従っていただくのが良い方策のように思われた。

録音技師がない宅録の場合は、マイクの性能にもばらつきと限界がある。この際にはゲインをなるべく少なくし、音が割れないように指示を出すことが重要であった。音量の調節や多少のリバース加工などはアプリでできるが、音割れを直すことはできないからである。

しかし、どのように努力したとしても、マイクで拾う音には限界があった。声楽家の声の持つ響きやボリュームを録音で再現することはできなかった。

配信ツールでトラブルが起きると、配信自体が成り立たなくなるため配信ツールの信頼性は重要である。しかし、インターネット配信自体がまだ比較的新しい技術であるためか、提供されているサービスの使い勝手や信頼性には課題があった。配信用ツールの [switcherstudio.com](https://switcherstudio.com) は、配信に必要な機能がコンパクトに整理され、利用方法もわかりやすく、配信に必要な性能を満たしていた。しかし、配信予定の URL を複数セットするとバグが起きて配信できなくなってしまう。当初このことに気が付かず、テストを重ねた上で配信をしようとするとう落ちてしまうため、生配信の開始が遅れる事態を起こしてしまった。

また、説明書きによれば、中継先の音声は [switcherstudio.com](https://switcherstudio.com) を起動させている iPad から出

力されるとなっているのだが、実際には出力がなされないため、この対策が必要であった。

配信プラットフォームの Vimeo については、大きな問題は見受けられなかった。しかし、Vimeo と日本著作権協会の間には著作権の包括契約がされていないため、著作権のある音楽を配信する場合の手続きが不透明である。また、オンラインならではの機能としてチャットによるやりとりでインタラクティブ感を出し、臨場感を盛り上げることがあるが、Zoom の時には活発であったチャット機能が Vimeo ではまったく利用されなくなってしまった。Vimeo は配信時のレイテンシーが 20 秒以上と長く、チャットでのやり取りに臨場感がなくなってしまいうこともチャットの積極的な利用を妨げたと考えられる。生配信ならではの楽しみ方は今後も求められていくと思うので、さらなる実践と研究を重ねていきたいと考えている。

最後に配信コンサート採算性の問題について少し触れておきたい。現状リアルコンサートの復活した状況とはいいいがたい。2021 年 11 月現在でもコンサートホール側の要望で客席が半分以上に抑えられているところもある。感染の恐怖がまったくなくなったわけではないこともあって客足が戻っているとも言えないだろう。その分を配信が補えるのかというところではなさそうだ。少なくとも文化庁の収益力強化事業における配信は月に数千円の収入にしかない。一方で、配信コンサート制作も、専門家が収録を行うと 100 万円を超える費用がかかり、この費用は、リアルコンサートの制作費用に追加して必要となる。

市場の特徴も見ていく必要がある。2020 年 10 月から 12 月のオンラインライブ市場は 373 億円の売り上げがあったとされる。一見活況を呈しているが、ここには嵐の「アラ・フェス」解散コンサートである「This is 嵐 Live」それにサザンオールスターズのコンサートなども開催されていた。嵐の解散コンサートを例にとってみると、その配信料金はファンクラブ会員向けが 4,800 円である。嵐のファンクラブの加入者数は 300 万人以上であることから、その 3 分の 2 だけが見たとしても、96 億円の売り上げとなる。これが 2 回あったと考え、同じく集客力が話題となったサザンオールスターズのコンサートがあったことも考え合わせると、配信コンサートは大量のファンを抱えるアーティストが一人勝ちする市場である可能性が高いのではないだろうか。クラシックにおける配信コンサートの在り方についてはさらなる研究を重ねていきたいと考えている。

## おわりに

オンライン配信によるコンサート提供は音声や配信の信頼性や収益性に問題はあるものの、視聴者が自宅から参加することから、コンサートに出かけることに比べると思い立った時に

手軽に参加が可能だ。アンケート結果を見ても、子育て中だが自宅から見られるために参加できた、という意見や、クラシック鑑賞の初心者だが気軽に自宅から見られた、といった意見があり、聴衆の拡大には一定の意味があると考えられる。

ワクチン接種も行われ、リアルコンサートが再開されたとはいえ、アーティストそれぞれがせっかく手に入れた録画や配信のスキルや機材は、今後も生かしていくことができるのではないだろうか。採算は取れないとしても、例えばプロモーションなどの一定の役割を配信コンサートが担うこともできよう。

現状では制作面を見ると、配信ツールの信頼性がまだまだあまり高くないことと、Zoom 以外ではチャットといったような同時性を必要とする施策があまり活発には行えなかったことを鑑みると、生配信の意義はあまり高くないのかもしれない。例えばトーク部分も含めて映像作品として作ったものを配信プラットフォームから生配信かのように配信するなど、主催者と視聴者双方にとってストレスのより少ない配信コンサートの制作方法は様々考えられる。このような観点からもさらに研究を重ねてみたい。

## 参考文献

厚生労働省 2020 「イベントの開催に関する国民の皆様へのメッセージ」 2021 年 11 月 30 日閲覧。[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage\\_00002.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/newpage_00002.html)

『日本経済新聞』夕刊 2020 「文化往来」 2020 年 6 月 30 日掲載現在、NIKKEI STYLE に該当記事が転載されている。「オンライン公演に活路 解説付き・投げ銭…工夫凝らす「ウィズコロナ」のクラシック(下)」 2021 年 11 月 30 日閲覧。

<https://style.nikkei.com/article/DGXXKZO60957070Q0A630C2BE0P00/>

ぴあ総研 「2020 年の有料型オンラインライブ市場は 448 億円に急成長。～ポスト・コロナ時代は、ライブ・エンタテインメントへの参加スタイルも多様化へ /ぴあ総研が調査結果を公表 2021 年 11 月 30 日閲覧。

[https://corporate.pia.jp/news/detail\\_live\\_enta\\_20210212.html](https://corporate.pia.jp/news/detail_live_enta_20210212.html)

ライブ・エンタテインメント調査委員会 2021 『ライブ・エンタテインメント白書』ぴあ株式会社ぴあ総研 20-21。

Berklee Online, 2021. “Stephen Webber - Tips for Recording Opera Vocals” 2021 年 11 月 30 日閲覧。

<https://www.youtube.com/watch?v=WQY01OC0AIE>